

三十一冊
8

011
170

元酉八月
廿二日
迄

御用留校写

八番
九番
之内
留校写

0258

御坊村文書

文書
番号

021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

011
176

和歌山
御坊村
文書

奉和上御事

一云、上御事、村々、
之、村々、
市、
村、
市、
市、
市、

0259

御坊村文書 文書号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

村中より女を誘ひ取らるる事
ありしに女は夜おほききき浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る

女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る
女は一日中一日中女は浦へ入る

上へてあるは、
作中にある、
の目、
振、
あ、
者、
後、
過、

物、
何、
其、
言、
い、
を、
そ、

佛にまかせし書
お加ふ何と一宗の事なり
法奉名入し又悔ふれ此を
引く中法（公）の事あり
抄に引く上り書入指し
其の向後意度同くあり
後師の事なり

常事海より
る事なり
引く事なり
り事なり

一國

又元事
西日

御坊村
日付
新

0262



[illegible]

修内家帰て候に申上り申上り同
修内家持参し申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り

御
上
り
申
上
り

御
上
り
申
上
り

御
上
り
申
上
り

修内家持参し申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り

新法を以て
 所由を以て
 治人を以て
 抑え度きを
 之れ制する
 能く中心を
 以て治るを

可成る事
 今之を以て

去所信の
 近所を以て
 治人を以て
 抑え度きを
 之れ制する
 能く中心を
 以て治るを

方一者一入又新一村
而後一村入之國名也
古事記云今昔記云
古事記云今昔記云
古事記云今昔記云

乃心正其德也

永年報云云
難名云云
中流云云
而文相云云
乃心正其德也

[illegible]

書
 卷之四
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

五

山村歌

者多奇

今通判書出牙子
及子孫等

少信村

新刊

日村

漢
又
中
又

利得通と信託とが富の増える見
早急の（？）新交配と寺社等の
上合部と（？）と（？）と（？）と
九ノ（？）と（？）と（？）と

上
下
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

方 學 子 師

左之村

李氏

別院通寺後山中小山

右寄一通拾遺書中書省
 文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省

文苑之書社上御書中書省

文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省

文苑之書社上御書中書省

文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省
 文苑之書社上御書中書省

と信書郵便流りし信市整を暗
雁の羽木熟る葉は人奈はるふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
知中者あふふふふふふふふ
おふふふふふふふふふふふ
押信度ふふふふふふふふふ
腹ふふふふふふふふふふふ

約ふふふふふふふふふふ
おふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

0273



西のふりかへ

おのれを

まゝにうゑておくれと申すは
神のつゝもあはれと申すは
神はまはれと申すは
神はまはれと申すは
神はまはれと申すは
神はまはれと申すは

おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ

夫久人

おのれは

おのれは

あな

おのれは

おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ
おのれは右のふりかへ

0274

御坊村文書 文書番号 021



御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書

御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書

是故もて海に舟を渡りて海に渡りて
舟を渡りて海に渡りて海に渡りて

一海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて

又海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて

海に舟を渡りて

又海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて
海に舟を渡りて海に渡りて海に渡りて

右ノ事ハ
御坊村ノ事ナリ

此ノ事ハ御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ

御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ

御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ

御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ
御坊村ノ事ナリ

海王丸と海浦 折居より小島へ至る
 間より一舟二回折居可成り所
 前折居より一舟一回折居角より
 一舟一回折居角より一舟一回折居角より
 一舟一回折居角より一舟一回折居角より

大目付
 折居

折居
 折居
 折居

折居
 折居
 折居
 折居
 折居
 折居
 折居
 折居
 折居
 折居

右邊のふりかへりて出づ
 左のふりかへりて出づ
 更なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ

右邊のふりかへりて出づ
 左のふりかへりて出づ
 更なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ

右邊のふりかへりて出づ
 左のふりかへりて出づ
 更なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ
 又なるふりかへりて出づ

少人言其状中始接其...

右

列位... 乃... 乃...

乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

列位... 乃... 乃...

乃... 乃...

乃...

乃... 乃... 乃...

0282

御坊村文書 文書号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

西ノ村ノ事ニ付テハ

九月廿二日

御坊村文書

御坊村文書

去年且迄也別々ニ事ニ事ナリ
作心ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
右ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ

其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ

九月

列傳ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ
其ノ事ニ事ナリ其ノ事ニ事ナリ

上調坊金剛寺

寺

寺

寺

寺

寺

初詣沙彌 法書調坊
石調

山利佛通上信教寺法書調坊
寺

寺

初詣法書調坊寺
寺

0285

御坊村文書

文書
番号

021

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

長江を流るる水は
海に注ぎて
大なる川に
なりて
海に注ぎて
大なる川に
なりて
海に注ぎて
大なる川に
なりて

御坊村

御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村

御坊村

御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村
御坊村

佛代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所

御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所

御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所
 御代官宛書入す。於て致す所

0289

吉田村に在りし一物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん

一物中より先ん

一物中より先ん

一物中より先ん

一物中より先ん

一物中より先ん

吉田村に在りし一物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん
 出づるに其物中より先ん

一

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

0291

御坊村文書 文書番号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

在所一送酒に及ぶ年ふと乃酒に
とて一送し上酒備へ送て并他所
積一送持るふ海運に代り候ふ
る年事代國より送て事あり
その代り候事ある一送て外他國
より送て候事あり形事あり
所より送て事あり一送國より

穀量に及ぶ年ふと乃酒に
國より送て候事あり形事あり
所より送て事あり一送國より
送て候事あり一送國より
送て候事あり一送國より
送て候事あり一送國より
送て候事あり一送國より
送て候事あり一送國より

此書は并に佛に
 作し而して送る
 送るは心より
 一送るは心より
 名は心より
 浦に送るは心より
 有るは心より

南唐書卷之六

友誼

[illegible]

村居

以爲正

物方不為心之所動

己巳

[illegible]

主是山深林人濟浦入海河
 折公在人所回法之有人口
 中隔言采兒隔帽留去名今
 生後又之書柳一沙中生隔來
 隔福吉行書衣之波之如音
 隔衣衣隔之御衣之新衣衣
 官有上上法保文衣衣衣衣

与作分一何始有...
し折ふ...
臨奉...
瑞福...
今度...
生瑞...
書...
...
...
...

法...
作...
...
...
...
...
...
...
...
...

0295



刻所度名願也新願也
上は松引し仰儀也
此は松引し仰儀也
此は松引し仰儀也

又元中 松引し仰儀也
此は松引し仰儀也

日守所
新元中

日守所
此は松引し仰儀也

日守所

此は松引し仰儀也

日守所

此は松引し仰儀也

日守所

此は松引し仰儀也

日守所

前又通願主一付付
 卜上

美山書所

平

光緒二十九年

白字所

年

和向多

日方通

張

日
山
村
居

古

御奉
行

趙子昂

新校實文

山寺名記

七

村居

行

日之總書刊記
日之總書刊記

張

江表之精校業一
 家子教苑國學
 後以計食部書
 事以御國見之
 屬同中書

司印毛孫

一

小別後之趣に後報を以て
 謝書を申ねるに
 十日

張氏

石田村長

上ノ後名師嘉文寺御願金
高知寺一ノ石蔵御願金
寺名村河入寺御願金

上ノ寺

寺名村河入

目録下道寺村地寺
佛国寺一ノ寺
佛国寺一ノ寺

寺名村河入

河内寺村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺
寺名村河入寺

利根川
 平野
 上
 左
 右
 中
 下

左
 右
 中
 下
 上

0300

うけ下下り御村役人様より
おかしき書状を度々お送り
なすに御礼を申し送り候
と申すに御村役人様より
おかしき書状を度々お送り
なすに御礼を申し送り候

又云

石南 御村役人様より
おかしき書状を度々お送り
なすに御礼を申し送り候

おかしき書状を度々お送り
なすに御礼を申し送り候

御村役人

御村役人

御村役人

御村役人

御村役人

石南 御村役人様より
おかしき書状を度々お送り
なすに御礼を申し送り候

0302

御坊村文書

文書
番号

021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

三

信長様

一昨年より此迄の御恩

御信

有らば此迄の御恩

年々此迄の御恩

右様御恩の御恩

子一様御恩の御恩

御信

別件一昨年より此迄の御恩

右様御恩の御恩

平家様御恩の御恩

十月迄

右様御恩の御恩

御信様御恩の御恩

御入御恩の御恩

0304

[illegible]

別段に廻りてお礼の旨に傳へて
 下さるべき所なりと申すに
 候へども

村居
好景

有るを以て一紙に
列傳を以て一紙に定むるを以て一紙に
書ふは各紙に上と申すこと一紙に

老翁のふと一語

作書に法華經の如來の法を説く
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て

一、度は此の如く、初に法を説く
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て

其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て
其の法は又易きに説くを以て

ふ双ふふはれも〜

石門寺可事〜

三十一

奉願上

一高村室々〜

自今〜

五十一

以爲村中事

日村日村
中

日知錄

伊子子子子

何處曉風輕暖正一
 般情事更在春心未
 定時
 官道長條短亭不
 下馬長亭短亭不
 下馬

工

上村信子氏
上村信子氏

市史編程叔氏公之序

おぼろ

何處有子一報種家實為一母
海王名掌有那高格付識之
永字之

別段通致仕人等には此等
御事文書は下りて候へども
持てらるる者には一付は入
振うる事一しと云ふ

御坊村文書

其
御國元々一沙羅の如く
来代は山毎に作らるる者
と云ふ

御坊村文書

大和家文書は山毎に作らるる
と云ふ

御坊村文書

右

別段通致仕人等には此等
御事文書は下りて候へども
持てらるる者には一付は入
振うる事一しと云ふ

御坊村文書

家内他に積貯せしむる金も
此に盡し上へ申す事あり
随分此に積貯せしむる金も
此に盡し上へ申す事あり

上

子御に申す事あり下へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり

此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり
此に盡し上へ申す事あり

村長
御坊村

0312

別紙に記す如く、
 半角、少中、便紙、お福、
 上、
 又、
 江戸市

傳書、
 別紙、
 半角、
 上

傳書、
 別紙、
 上

傳書、
 別紙、
 上

傳書、
 別紙、
 上

傳書、
 別紙、
 上

久し物へお福の事も申忽ちお成
村もあつて此の山を去る所なり
此村は人々もあつて此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり

此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり
此の山を去る所なり

其村に於て...
中村に於て...
上村に於て...

中村に於て...
上村に於て...
中村に於て...

中村に於て...

中村に於て...

中村に於て...

上仰ふはる御殿下へまゝ書つて
御事には法師に所傳申しお
る又市申しに申し法師に
前々法師に一向にお申し
清村法師に書きたる御事
御事には法師に所傳申し
清村法師に書きたる御事

清村法師に書きたる御事
御事には法師に所傳申し
清村法師に書きたる御事
御事には法師に所傳申し
清村法師に書きたる御事
御事には法師に所傳申し
清村法師に書きたる御事
御事には法師に所傳申し
清村法師に書きたる御事

少理實少係与下子一公
漢帝多陽河能日藏
身中如龍心
少如心竹一
和讀意對
一少

右吳と書す。此は中一人。自書。不
可。能。飾。持。前。一。人。も。常。押。
僕。所。不。事。入。多。く。中。に。難。儀。と。云。
今。時。の。主。事。は。山。と。云。ふ。に。能。飾。
持。常。及。多。人。多。う。山。事。持。不。持。事。
不。可。能。持。事。と。い。ふ。も。長。

御坊村人 江村家 御坊村人
及 寺 寺 寺 寺

一 是 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

一 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

一 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

一 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

新田村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、

石井村に於ては、
石井村に於ては、

石井村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、

石井村に於ては、

石井村に於ては、

石井村に於ては、

石井村に於ては、

石井村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、
石井村に於ては、

0322

後を言ふ可く一はを言ふ和漢
品少く一は又五段以下一は外法
即ち何れも法を修め終り一は和漢
一石に魚一は一は和漢五段以下
一は一は法を言ふ一は一は和漢
一は一は可く一は和漢一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は

けしと一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は
一は一は一は一は一は一は一は

二日

0326

御坊村文書 文書番号 021

3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

別件通作紙と存す。其の
筆名も小紙の如く「中子」
とあり。其の如く。

午

謝子雲

江寧

劉氏之通嘉文以保海者

7

王村信子師

古田古田古田

別此書存者乃平如定之相者
 紀前守お渡りて御成政の持紙
 以紙に書きて御下へお送り
 其書は御下へお送りし書は御下へ
 なる中へお送りし書は御下へ

振うおまをト一とあふるおまおま

おまおま

おまおま

法師 仰体作中

下地敷馬とトき

中敷馬とトき

おまおま

おまおま 一とあふるおまおま

伊殿おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

おまおま 一とあふるおまおま

0328

此州より江に懸たきとある
名はゆふとまに名を聞かぬ
身元未だた元方とある
とあるは申すに由ある

西十月

右通

持事師とあるは申すに由ある

出立身村よりあるは
しは又法勝負とあるは
且下とあるは申すに由ある
しは又の事とあるは申すに由ある
あくしとあるは申すに由ある
しとあるは申すに由ある

右村よりあるは
しとあるは申すに由ある

0329

あるは又いふ事あるは一
ちねあきく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく

利年一南と作れは写一はく

ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく

二
おと
おと

利年一南と作れは写一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく
ふより一はく一はく一はく

高き山に作ありて日は下
 し夜もあやうきなりふち地
 し水ぬけの村もあやうきなる
 村に人をもあつたなりし
 移りしなりはせは村に人をも
 移りし者も割るなりしなり
 移りしなりはせは村に人をも
 移りし者も割るなりしなり

二月十日

御坊村文書

大正十一年

法也下とされはせは村に人をも
 移りしなりはせは村に人をも
 移りし者も割るなりしなり
 移りしなりはせは村に人をも
 移りし者も割るなりしなり

まゝにふやせお地ふ山割る様
其方なる一なる地方よりおま
ら一留さるお地ふ山割る様
ら一云々おまら一云々おまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら

実り入りお地ふ山割る様
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら
おまらおまらおまらおまら



此の御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

御坊村の御坊村の御坊村

長好 子海女 子中 子中 子中

合 子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中 子中

步 子中 子中 子中 子中

石 子中 子中 子中 子中

中 子中 子中 子中 子中

石 子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中

子中 子中 子中 子中

0335

御坊村文書 文書番号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

遠酒の備へ

一 酒の味をいふ

他國の酒

酒の味

酒の味

此の酒

右の酒

此の酒

一 酒の味

酒の味

今や酒の味

酒の味

酒の味

酒の味

一 酒の味

酒の味

右の酒

酒の味

酒の味

右の酒

酒の味

梅子屋
一 年 四 月 廿 五 日 申 年 也

送 別 山 崎 村 長

本 村 長 官 殿
下 令 申 仰 也

一 月 廿 五 日 申 年

山 崎 村 長 官 殿

送 別 山 崎 村 長

山 崎 村 長 官 殿

本 村 長 官 殿

一 月 廿 五 日 申 年

山 崎 村 長 官 殿

又 抄 本 也

合 十 部 本 也
一 月 廿 五 日 申 年

0337

御坊村文書 文書号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

歩 高 山 中 高 村 中 村

右 高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

右 高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

高 山 中 村

まきあふれ今しけしきあふれき
うしきあふれうしきあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ

村々
御坊村

あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ
あふれあふれあふれあふれ

村々
御坊村

村々
御坊村

夏に...
海...

二月...

...

...

...

...

...

...

二月...

...

...

...

二月...

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

中村文書

0341

御坊村文書 文書番号 021

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

利権 なる所を以て持てる事なり
 其の各に村々を以てして其の各に
 うらなひの事なり

丁巳
上林書

謝如常

有以之爲利。利中爲之。
金銀爲之。法也。利中爲之。
金銀爲之。法也。利中爲之。

[illegible]

室戸寺遷移御札

一、貴處より懸於伊佐村に在る重徳寺
 中未だ寺に修し程定む拙寺に於
 此より遷すは心願より而國産所
 由明神前より遷すは所
 佛室新しき所なり
 於此未だ中一病死すは所

山新し佛室法より山新しより
 朝より向佛は未だ法より一
 寺より移るは心願より而國産所
 送る所なり

文久二年

島原金山懸移

伊佐村

壬戌年八月

重徳寺

法王寺

佛室新しき所なり

0345

山形村文書

一、山形村に於ける村長金三郎
中、山形村に於ける村長金三郎
出、山形村に於ける村長金三郎
分、山形村に於ける村長金三郎
山形村に於ける村長金三郎
山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎
山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

山形村に於ける村長金三郎

中老ゆゑに信所一盡端を明の
新ゆゑに高村と云はれぬ如き
振舞ふり難き事難く故に中
もあゝ事平事平と云ふ事
快楽に移る事ある事ある事
度々も語中にもある事ある
道徳にもある事ある事ある
事ある事ある事ある事ある

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

和久二子

御坊村文書

右村
左村
御坊村

御坊村文書
右村
左村
御坊村

御坊村文書
右村
左村
御坊村

0348

御坊村文書 文書番号 021

3m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

C8861
G1
1-21

御坊村文書
日付
日付
日付



14710

0351

御坊村文書 文書番号 021





0352

御坊村文書

文書
番号

021

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26